

## 第10回名勝洗足池公園保存活用連絡協議会 議事概要録

日時：令和7年10月23日（木） 10時：00分～11時：30分

場所：大田区洗足特別出張所 会議室

### <当日資料>

- ①次第
- ②第9回協議会議事概要
- ③第9回協議会での指摘事項と対応方針
- ④資料-1 洗足池公園の今後の計画について
- ⑤資料-2 底質改善実証実験について
- ⑥資料-3 植生浄化基本設計について
- ⑦資料-4 景観構成重要木の伐採報告（令和7年度）
- ⑧資料-5 都市景観大賞特別賞の受賞について

発言者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
-	--以下議事内容--
事務局	（資料-5 都市景観大賞特別賞の受賞について 説明）
委員長	・特別賞の受賞だが、総評では大賞に匹敵すると評価いただいている。 ・講評では洗足池での子供の遊びということにも触れられていたと思うので、事務局から紹介いただきたい。昔の子供の遊びも振り返ったかどうかという話だったと思うが。
事務局	・今ある児童公園的なものでなく、地域の方々が「昔は洗足池でこんな遊びをしていた」ということもふまえて、洗足池ならではの子供のための空間を作ってもらいたいということであった。
事務局	（資料-1 名勝公園マネジメント計画について 説明）
委員長	・洗足池公園の今後の計画については、全区的なマスタープランとの整合は区が担うものとし、本協議会では保存活用計画を中心に検討を進めるということによろしいか。
事務局	・洗足池公園については、名勝洗足池公園保存活用計画があるため、これを尊重し、事務局のほうで整合を図っていく方針である。
副委員長	・協議会で議論されていることとマスタープランに大きな相違点はないという理解で良いですか。
事務局	・大きな相違点はない。
事務局	（資料2 底質改善実証実験について 説明）
委員長	・実証実験は端的にいうとどういうものか。 ・前回の協議会で、実験中水が黒く汚れるのではないかという話があったが、実際はどうか。
事務局	・池内に2種類の浄化ユニットを設置しており、Type01は水流を発生させて酸素を送ることと藻類を粉碎し、濁りの原因を抑える。Type05はヘドロをかき混ぜ、バクテリアとナノバブル酸素で分解・浄化する仕組みである。これらによりヘドロと濁りを減らす。 ・洗足池の底泥は嫌気性の黒いものでなく、土砂が多いという状況で、水は黒くなっていない、水も透明で景観上の問題はない。
委員長	・ユニットの音は気にならないか。

事務局	・現地で確認したところ、音も気にならなかった。
副委員長	・実験では10メートルの囲いで仕切った実験区を設け対照区と比較しているが、実際には仕切りは撤去される。この装置を池内に複数設置する場合、必要な設置数や配置は実験からは判断しにくい。効果が距離とともに薄まる点について、どのようにモニタリングし判断していくのか。
事務局	・現時点では、ヘドロ対策のType05を池中央部に4カ所、藻類対策のType01を約12カ所設置する想定である。ただし数値的裏付けはなく、設置数と浄化効果の関係は現時点では不明である。
副委員長	・仕切りを外した状態で距離による効果減衰を測定し、水質変化から必要設置数を推定する調査を実施する予定はないか。
事務局	・現在は基本設計での実験であり、その結果をもとにして来年、実施設計を行うので、装置の設置個数について、どのような検証ができるか、検討する。
副委員長	・実験途中で仕切りを外して距離効果を確認すれば、コスト面でも有利ではないか
事務局	・検討する。
事務局（コンサル）	・隔離水域は効果を明確化するために設けている。洗足池は流れがほとんどないため浄化効果は距離とともに減衰するが、拡散計算で評価可能である。実証実験と結果計算を踏まえて実施設計で必要台数を算定し、設置後はモニタリングで順応的に調整していくことになると思う。
委員長	・実証実験は秋から冬で、どちらかと言うと藻類の発生が少ない時期だが、今後、藻類が光合成で増える夏もやるのか。
事務局	・夏は暑すぎてバクテリアの成長の面では良くない。藻類は1年中発生しているが、水質浄化施設が止まった時は11月でもアオコが発生しており、年内での結果は得られると思っている。来年は、植生浄化の実験を実施するが夏にも実施する予定である。
副委員長	・タンクが池の周りに多数、置くことになると思うが、分電盤も必要か。
事務局	・タンクや分電盤の配置は来年度の実施設計で検討する。
副委員長	・景観が重要なので留意して検討いただきたい。
委員長	・底質改善実証実験の結果や実施設計については、分かった段階で、お話しいただけるという理解でいいか。
事務局	・協議会に諮りたいと思う。
事務局	（資料3 植生浄化基本設計について 説明）
委員長	・実施時期はいつか。
事務局	・実施設計を挟み2年後になる。来年度は実証実験として池に浮島を設置してモニタリングを行う。
副委員長	・既存のマコモの植栽地ではどのような管理をしているのか。
事務局	・景観のために植栽しており、（水質浄化の面での）刈り取りなどは行っていない。
副委員長	・今後、水際に相当植栽されることになるので、管理のあり方を考える必要がある。
委員長	・5年ぐらいの期間で、基本計画、基本設計、実施設計と動くことになると思うが、スケジュール表があると計画的に進められていることが分かって良い。
副委員長	・資料1に「本協議会で検討している洗足池の各計画は今後、このマスタープランに位置づけられることとなります」とあるが、全体の中でどの部分を議論しているか分かるようにしておくが良い。
委員長	・池の底質改善、植生浄化に際しては、大森六中などに参加を呼びかけたら良い。
委員長	・底質改善実証実験では培養タンクの周りに赤色のカラーコーンを設置しているが、景観配慮型の緑色のカラーコーンにした方が良いのではないか。

事務局	(資料4 景観構成重要木の更新状況(令和7年度) 説明)
委員長	・(報告対象と近接していることから)擁壁工事の進捗について報告いただきたい。
事務局	・擁壁工事は予定通り進んでいると報告を受けている。
委員長	・景観構成重要木の更新について、10月現在未済ということは、季節的に移植する時期ではなく、これから植えるということでしょうか。
事務局	・その通り。
委員長	・公園の樹木の枝が折れて、来園者の方に怪我などが起きてしまったら、大きな問題になるので、適切な管理をしていきたい。
事務局	(その他 説明)
事務局	・次回、第11回協議会の開催は、来年2月ごろに予定している。